



挑戦

～故郷のためにできること～

兵庫県立森林大学校 8期生

伊達 新

Date Arata

みどりじまん新聞

森林創生

宍粟

森と共に生きるまち宍粟の
しそう

Vol. 21

令和7年12月号

大好きな宍粟

私は、令和六年に森林大学校に入学しました。宍粟市で生まれ育つた私は、小学校から高校まで、ずっと市内の学校に通いました。そして、なぜまた市内にある森林大学校に入ったのかというと、やはり「宍粟市が好きだから!」というのが一番の理由です。

友人達は、「色々な所に遊びに行きたい。都会に行きたい。」と言います。でも、都会に出かけて帰つて来た時はいつも、改めて宍粟市の空気の美味しさを実感します。そして、自分をずっと見守つてくれている家族や地域の皆さんのが優しさを感じて、ほっとした気持ちになります。

美しい自然とあたたかい人達がいるこの宍粟市のこと、私が本当に好きなのです。

森林大学校へ！

新入生ハイカー→



庭田神社にて
ぬくぬくの泉を
観察する様子



←樹木学実習
国見の森公園にて、講師から
樹木の説明を
聴講する様子

新入生歓迎ハイクでは、大学校のある染河内地区を散策して、地域の自然や歴史について学びました。また、樹木学実習では、市内の山崎町や波賀町へ出向いて、様々な植物を観察しました。そして、持ち帰った樹木の葉を用いて、標本の作製も行いました。

バッケナンバー
はこちら



「みどりじまん新聞」とは？

もくいく
“木育”の視点を持って「森と共に生きるまち“しそう”」が誇る“みどり”の魅力を発信し、森や木に関心をもってもらうことを目的としています。主に「兵庫県立森林大学校」の学生が執筆した記事を掲載し、学校での学びを生かして人と木や森林との関わりを伝えてもらいます。

測量学実習では、実際に山の中に入つて、測量の方
法を学びました。

その他にも、刈払機を持
つて下刈り（苗木が健やか
に育つように、周囲の雑草
や雑木を刈払う作業）を行
つたり、自分達で切った木
を集めたりと、森林とふ
れ合いながら、たくさん
経験を重ねることができます。

私がこれまで一番楽し
く、良い経験だと思ったの
は、機械学実習です。この
授業では、チェーンソーを
使って木の切り方や伐木の
仕方を習い、数日間をかけ
てチェーンソーの仕組みを
覚えていきます。

私はチェーンソーを使つ
たことのない素人だったの
で、初めて丸太を切る時は
少し心配でしたが、うまく
切ることができました。そ
して、それから数日後、い
よいよ山へ入り、実際に立
つて木を切ることにな
りました。



演習林で伐木を行う 伊達さん

一本目を切る時は、本当に緊張しました。「変な方向に倒れたらどうしよう。事故になってしまったらどうしよう。」と、不安な気持ちでいっぱいでした。でも、一本、二本と数をこなしていくうちに、だんだん狙った方向に倒せるようになつていきました。不安が消えて、自信に変わつていくのを感じました。

私は、森林大학교に入つて良かつたです。「努力する」とは本当に楽しい！」と心から思える経験を、日々積み重ねることができます。

高校時代にも、様々なことに挑戦してきました。まず、かつこいいという理由で始めた弓道部の活動でしたが、努力の結果が実り、県大会で入賞し、近畿大会出場という結果を残すことができました。また、生徒会活動にも挑戦して、生徒会長も任せていただきました。総合的な探求の時間には、和太鼓の演奏にチャレンジし、多くの人から感動したと言つてもらえたことが本当にうれしかつたです。

☆くにみまつり☆

森林大学校は、毎年9月に国見の森公園で開催される「くにみまつり」でブースを出展し、ワークショップなどを通じて、訪れる人たちに木や森の魅力を伝えています！



子どもたちに指導する小島さん（7期生）

「挑戦すること」は、本当に大事なことだと思います。

森林大학교への入学もひとつの挑戦でした。私は、大학교で林業に関する知識や技術はもちろんですが、特に宍粟市の森林のことをしつかり学びたいと思っています。そして、卒業後は大학교で学んだことを活かし、きれいな自然や豊かな森林を通じて、宍粟市を活性化していくような仕事に携わりたいと考えています。これからも、私の挑戦は続いていきます。

この新聞を読んでくださった皆さん、宍粟市の森林や林業にさらに興味を持つていただけたならうれしいです。

森林経営や森林林業に関わる 人材を幅広く育成する学校



宍粟市は「森林」を活用したまちの創造・SDGsに取り組みます



8 働きがいも 経済成長も



5 陸の豊かさも 守ろう